

## 平成30年度学校関係者評価委員会 議事録

【日時】平成30年7月14日（土）15：40～16：10

【会場】こころ医療福祉専門学校 3階 講堂

【委員】出席：大木田治夫，志岐浩二，有村俊男，西原美由子（松尾峯子代理）  
松本修，清川慎介，石原義大，諸岡辰巳，川崎和幸，谷川幸太

【事務局】出席：藤原善行，藤村幸一，田川祐治，野口大樹，川口進一朗，高島恵理子  
久保義哲，古里尚也，松尾和香，中野仁，高橋美如，松川征平

【委員】欠席：松尾峯子，中嶋孝行，下村雅樹，沖永さとみ，田川祐治

（敬称略）

【総評】大きな問題なし。現状に満足することなく，さらなる改善に努める。

1 学校自己評価の説明（司会 副校長 藤村幸一）

学校自己評価報告書，学校自己評価結果に係る評価書の説明を行う。

2 平成29年度学校自己評価結果に係る委員の評価書

特に問題なし・・・○

附帯意見あり・・・△

	点検項目	学校関係者評価
1	学校の目標・計画	○
2	教育理念・目標	○
3	学校運営	○
4	教育活動	○
5	学修成果	△
6	学生支援	○
7	教育環境	○
8	学生の受入れ募集	△
9	財務	○
10	法令等の遵守	○
11	社会貢献	○
12	国際交流	○
13	学校評価の総合的結果	○

### 3 委員意見

- (1) 国家試験合格率の向上が望まれる。
- (2) 国家試験合格率を全国平均よりも高くすることが募集にも繋がると考えられる。
- (3) 実習先として、学生を受け入れることにより、利用者の表情が明るくなるという変化がある。
- (4) 国家試験合格率を上げていただきたい。
- (5) 学生が社会に出た後は、知識も大切だが、知恵や行動力も非常に重要であり、その重要性を教育して欲しい。
- (6) 柔道整復師の業界は、厳しい状況ではあるが、やり甲斐は非常にある。また、社会のニーズはあるため、学校と協力し、時代に適応していきたい。
- (7) はり師きゅう師が増え続けている中、就職先が限られており、低収入で希望のない職業になっているので、募集が厳しい状況と考えられる。現代医学とは見方が異なる東洋医学的な診断、考え方を教えることで、力を持ったはり師きゅう師の養成をお願いする。

### 4 その他意見交換

#### (1) 大木田委員

卒後教育を各病院で実施している。特に専門的な技術を学校だけで教育することは厳しいと思っている。学校と各病院で協力して卒後教育を実施することにより、様々な課題が把握できると思う。本医院でも良いので、どこか学校と協力して、一緒に卒後教育を実施するシステムを構築できたらと考えている。

→専門的な力を高めるためにも是非実施したい。本校卒業生に呼びかけ、確認をしたいと思うので、実施の際は、お願いする。(古里)

#### (2) 松本委員

学費に関する減免制度について、説明をして欲しい。

→本校で実施している授業料減免制度は次のとおり。

##### ア 一人暮らし支援制度

進学を機に一人暮らしを始める家庭への支援制度。

##### イ ダブルスクール制度

柔整、鍼灸のダブルスクールが主だが、2つの学科に所属する学生に対する減免制度。

##### ウ 有資格者優遇制度

特定の資格を有している学生に対する減免制度。

##### エ 経済的支援制度

生活保護等の経済的に厳しい家庭を対象とした減免制度。また、このような厳しい家計状況の家庭には、長崎県からの補助もある。

経済的に厳しい家計の学生は、分納制度を利用している。分納制度を利用している学生の多くは、日本学生支援機構の奨学金を利用している。社会的に奨学金の滞納が問題になっている。本校では、奨学金は貸与であり、借金であるという意識付けをし、しっかりと返還するように指導している。(野口)

(2) 有村委員

介護福祉士修学資金貸付事業を利用している留学生は何名いるのか。

→日本人学生は利用しているが、留学生の利用者はいない。ほとんどの留学生が、連携施設奨学金制度（施設が学費を出す奨学金制度）を利用している。(野口)

5 今後の取り組み（校長 藤原善行）

(1) 次年度から本委員に「学校経営目標」を配付する。

(2) 社会の多様化，ニーズの多様化，時代の流れ等を意識した教育を推進する。

(3) 本会で提言・提案されたことについては，各科で具体化を図り，結果・成果等を次回の委員会で報告できる取り組みをする。

6 まとめ（校長 藤原善行）

教員というのは、教科書を教えるのではなく、教科書で教える力量が必要である。結果として、教育的視点でしっかりと学生に指導したことがもっとも意義がある。教職員も学生も局所的ではなく、全体像を掴み、理解・把握したときに本当の力が発揮できる。教えたことが100%学生の身につくことが理想ではあるが、現実では厳しく、教えるだけでは、しっかりと習得できない。学生の学ぶという探究心の必要性を実感し、社会（将来）が見えるような授業を実施したい。学生は、夢が見えなければ、希望が持てない。希望がなければ学びの目標がなく、目標がなければ学びの努力につながらない。専門家としてだけでなく、ひとりの人間として人材を育成する。